

巻頭言

情報基盤センター長
中村宏

早いもので2年2期のセンター長の任期がこの3月で終了し、新しいセンター長へたすきを渡すことになりました。

当センターの重要な役割の一つは、スーパーコンピュータに代表される最先端の情報基盤をその利用環境と共に共同利用・共同研究に供し、若手を含めた利用の裾野拡大を図るとともに、その過程で新たな技術と知見を創出し、次世代のさらに進んだ情報基盤を実現していくことです。この役割の重要性は、私が4年ほど前にたすきを渡された時よりもさらに大きくなっています。昨年度、当センターでは新しい試みとしてデータ解析・シミュレーション融合スーパーコンピュータ **Reedbush** を導入しました。また、今年度より一般利用を開始しているスーパーコンピュータ **Oakforest-PACS** は、革新的ハイパフォーマンス・コンピューティング・インフラ（以下、**HPCI** と略す）に提供されているシステムの中で最高性能のものであり、現在の「京」コンピュータが運用を停止した後は、2021年頃にポスト「京」が運用を開始するまでの間、当センターは先頭にたって **HPCI** を担っていくこととなります。文部科学省研究振興局内に設置され、現在私も委員を務めている **HPCI** 計画推進委員会では、今年度「今後の **HPCI** 計画の推進に向けた提言」を取りまとめました。その提言では、ユーザの裾野拡大の重要性と、計算科学とデータ科学との融合領域の研究などの新たな可能性を開拓することの必要性が言及されました。これらはまさに当センターが現在取り組んでいることに他なりません。さらに、今後の **HPCI** のあり方について、各大学の情報基盤センター等が有するシステムを含めて開かれた活発な議論をすることも、この提言に盛り込まれています。

このように、日本全体の計算科学・計算機科学の発展に対し当センターが果たすべき役割はこれまで以上に大きくなっておりますが、その責任を果たすべく、教職員一体となって当センターの活動を積極的に推進していく所存です。今後とも皆さまのご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。